

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年11月13日
【四半期会計期間】	第56期第2四半期（自平成24年7月1日至平成24年9月30日）
【会社名】	石垣食品株式会社
【英訳名】	ISHIGAKI FOODS CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 石垣 裕義
【本店の所在の場所】	東京都千代田区九段北1丁目9番12号
【電話番号】	03 - 3263 - 4444
【事務連絡者氏名】	経理部経理課課長 小西 一幸
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区九段北1丁目9番12号
【電話番号】	03 - 3263 - 4444
【事務連絡者氏名】	経理部経理課課長 小西 一幸
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 (大阪府中央区北浜1丁目8番16号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第55期 第2四半期 連結累計期間	第56期 第2四半期 連結累計期間	第55期
会計期間	自平成23年 4月1日 至平成23年 9月30日	自平成24年 4月1日 至平成24年 9月30日	自平成23年 4月1日 至平成24年 3月31日
売上高（百万円）	329	403	575
経常損益（百万円）	10	19	7
四半期（当期）純損益（百万円）	10	17	5
四半期包括利益又は包括利益（百万円）	11	18	6
純資産額（百万円）	364	377	359
総資産額（百万円）	470	502	440
1株当たり四半期（当期）純損益金額（円）	2.98	5.23	1.65
潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額（円）	-	-	-
自己資本比率（％）	77.4	75.2	81.6
営業活動によるキャッシュ・フロー（百万円）	16	0	20
投資活動によるキャッシュ・フロー（百万円）	0	2	12
財務活動によるキャッシュ・フロー（百万円）	3	3	6
現金及び現金同等物の四半期末（期末）残高（百万円）	103	88	94

回次	第55期 第2四半期 連結会計期間	第56期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自平成23年 7月1日 至平成23年 9月30日	自平成24年 7月1日 至平成24年 9月30日
1株当たり四半期純損益金額（円）	1.29	1.62

（注）1．当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

- 2．売上高には消費税等は含まれておりません。
- 3．副産物の売却収入は、従来、営業外収益の「雑収入」に含めて表示しておりましたが、前連結会計年度（第55期）から「売上高」に含めて表示することに変更したため、第55期第2四半期連結累計期間については、当該表示方法の変更を反映した遡及修正後の数値を記載しております。
- 4．潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更があった事項は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

当社グループは、前々連結会計年度まで6期連続して営業損失、経常損失及び当期純損失を計上していることから、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しておりました。

当社グループは、当該状況を解消すべく、不採算事業・工場・子会社の廃止・統廃合、不動産売却、有利子負債の完済、組織簡素化、人件費等経費の圧縮等を行う一方、営業力・商品開発力の強化を実施し、事業体質の改善を図ってまいりました。また平成22年6月に株式会社神戸物産と資本提携及び業務提携を締結し、安定的な販路が確保されたほか、第三者割当増資により財政状態が改善いたしました。その結果、前連結会計年度において、営業利益5百万円、経常利益7百万円、当期純利益5百万円を計上いたしました。

また、当第2四半期累計期間においても、ビーフジャーキーが堅調に伸長を続けているほか、商品開発力強化の成果であるごぼう茶が大幅に伸長し、当社の新たな主力商品として定着しつつあることから、赤字体質から脱して着実に黒字を計上できる体制が構築できたものと考えております。

以上により当社グループは、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況は解消されたと判断しております。

なお、当第2四半期累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### （1）経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間における当社グループの連結業績は、飲料事業、珍味事業とも増収増益となったことに加え、麦茶よりも利益率の高いごぼう茶、ビーフジャーキーの売上比率が高まったことから、売上高403百万円（前年同四半期比22.4%増）、営業利益22百万円（前年同四半期比95.6%増）、経常利益19百万円（前年同四半期比93.3%増）、四半期純利益17百万円（前年同四半期比75.9%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### 飲料事業

主力の麦茶は他社商品との競争激化による、厳しい収益環境が続いた事に加え、春と梅雨明けに気温の低い日が続くなどシーズン前半の天候不順の影響を受け、当社製品に限らず今年は春夏商戦全般が不振だったことから、前年同期比11.6%の減収となりました。

一方、ごぼう茶はネット口コミやマスコミ報道などが追い風となり、リピーターも着実に増え商品として一定の地位を確保し、原料調達量の制約がある「ごぼうの皮部分」を主原料に使用しているため、受注に対応しきれない状態が通期で続くヒットとなり、健康茶全般を大幅な増収に引き上げたのみならず、麦茶の減収幅を大幅に上回る増収を見せました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高216百万円（前年同四半期比24.9%増）、営業利益38百万円（前年同四半期比79.9%増）となりました。

#### 珍味事業

ビーフジャーキーは、堅調な自社ブランド品に加え、OEM商品が駄菓子向けを中心に大幅に売上を伸ばして今期も増収が続きました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高181百万円（前年同四半期比24.9%増）、営業利益26百万円（前年同四半期比11.5%増）となりました。

#### その他

だしのもと、業務用乾燥ナルトは前年同期並みの売上を確保したものの、業務用乾燥野菜は受注のない状態が昨夏以来続いており、収益が立たない状態が続いております。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高4百万円（前年同四半期比54.5%減）、営業利益0百万円（前年同四半期比31.7%減）となりました。

#### （2）キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末より6百万

円減少し、88百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは0百万円の獲得(前年同四半期は16百万円の獲得)となりました。これは主に税金等調整前当期純利益の増加があったものの、売上債権、たな卸資産、仕入債務が増加したこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは2百万円の使用(前年同四半期は0百万円の使用)となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは3百万円の使用(前年同四半期は3百万円の使用)となりました。これはリース債務の返済による支出によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、6百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	8,000,000
計	8,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成24年11月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	3,390,000	3,390,000	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 1,000株
計	3,390,000	3,390,000	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金 増減額 (千円)	資本金 残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成24年7月1日～ 平成24年9月30日	-	3,390	-	300,000	-	-

##### (6)【大株主の状況】

平成24年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
(株)神戸物産	兵庫県加古郡稲美町中一色883番地	800	23.59
石垣 裕義	東京都文京区	696	20.54
(株)石垣共栄会	東京都文京区白山5丁目24番10号	366	10.79
高島 順	東京都港区	242	7.13
石垣 靖子	東京都文京区	209	6.17
(株)さくらカラメル	大阪府八尾市上尾町4丁目1番10号	76	2.24
杉浦 由美子	神奈川県横浜市戸塚区	64	1.88
松本 智幸	大阪府八尾市	60	1.76
柳橋 恵美子	東京都文京区	21	0.63
中島 和信	東京都渋谷区	16	0.47
計	-	2,551	75.26

(7)【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式3,384,000	3,384	-
単元未満株式	普通株式 5,000	-	1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	3,390,000	-	-
総株主の議決権	-	3,384	-

【自己株式等】

平成24年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
石垣食品 株式会社	東京都千代田区九段北 1丁目9番12号	1,000	-	1,000	0.03
計	-	1,000	-	1,000	0.03

2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、東陽監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
 (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	105,000	98,323
受取手形及び売掛金	101,480	153,670
商品及び製品	45,333	52,637
原材料及び貯蔵品	17,761	28,664
その他	3,040	3,664
貸倒引当金	0	0
流動資産合計	272,617	336,960
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	60,147	57,741
機械装置及び運搬具(純額)	14,074	18,150
土地	47,780	47,780
リース資産(純額)	1,426	713
その他(純額)	2,196	1,990
有形固定資産合計	125,625	126,375
無形固定資産		
リース資産	5,161	2,580
その他	14,619	14,622
無形固定資産合計	19,780	17,203
投資その他の資産		
投資有価証券	15,657	15,399
その他	6,595	6,540
投資その他の資産合計	22,253	21,939
固定資産合計	167,659	165,519
資産合計	440,276	502,479



(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	39,965	65,491
リース債務	6,917	3,458
未払法人税等	2,671	2,844
賞与引当金	2,155	3,946
未払金	19,577	38,275
その他	8,136	9,205
流動負債合計	79,424	123,220
固定負債		
繰延税金負債	1,410	1,318
固定負債合計	1,410	1,318
負債合計	80,835	124,539
純資産の部		
株主資本		
資本金	462,750	300,000
資本剰余金	328,450	53,293
利益剰余金	416,012	39,646
自己株式	782	782
株主資本合計	374,404	392,156
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,548	2,381
為替換算調整勘定	17,511	16,599
その他の包括利益累計額合計	14,963	14,217
純資産合計	359,441	377,939
負債純資産合計	440,276	502,479

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	329,393	403,264
売上原価	185,458	235,140
売上総利益	143,934	168,123
販売費及び一般管理費	132,306	145,375
営業利益	11,628	22,748
営業外収益		
受取利息	69	109
受取配当金	164	178
雑収入	424	19
営業外収益合計	658	308
営業外費用		
為替差損	1,896	2,952
雑損失	56	130
営業外費用合計	1,953	3,082
経常利益	10,333	19,973
税金等調整前四半期純利益	10,333	19,973
法人税、住民税及び事業税	243	2,221
法人税等合計	243	2,221
少数株主損益調整前四半期純利益	10,090	17,751
四半期純利益	10,090	17,751

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	10,090	17,751
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	863	166
為替換算調整勘定	309	912
その他の包括利益合計	1,172	746
四半期包括利益	11,262	18,498
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	11,262	18,498
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	10,333	19,973
減価償却費	9,141	7,808
貸倒引当金の増減額(は減少)	162	0
賞与引当金の増減額(は減少)	309	1,791
受取利息及び受取配当金	233	288
為替差損益(は益)	1,641	2,455
売上債権の増減額(は増加)	44,803	52,324
たな卸資産の増減額(は増加)	3,334	17,829
仕入債務の増減額(は減少)	22,112	25,249
未払消費税等の増減額(は減少)	2,726	2,005
その他	14,292	17,200
小計	18,396	2,031
利息及び配当金の受取額	233	504
法人税等の支払額	1,825	1,742
営業活動によるキャッシュ・フロー	16,805	792
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	-	17
有形固定資産の取得による支出	574	2,052
投資活動によるキャッシュ・フロー	574	2,069
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
リース債務の返済による支出	3,458	3,458
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,458	3,458
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,529	1,317
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	11,242	6,053
現金及び現金同等物の期首残高	92,336	94,568
現金及び現金同等物の四半期末残高	103,578	88,514

【会計方針の変更】

(減価償却方法の変更)

当社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これによる損益に与える影響は軽微であります。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。当四半期連結会計期間末日満期手形の金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
受取手形	252千円	881千円

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は以下のとおりです。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
販売促進費	62,714千円	62,612千円
役員報酬	5,673	11,124
給料手当	20,432	21,111
賞与金	243	2,192
賞与引当金繰入	433	2,691

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
現金及び預金勘定	103,578千円	98,323千円
預入期間が3か月を超える定期預金	-	9,808
現金及び現金同等物	103,578	88,514

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動

当社は平成24年6月28日付で、欠損填補のため、資本金、資本準備金及び利益準備金の額の減少並びに剰余金の処分を行っております。この結果、当第2四半期連結会計期間末における資本金が300,000千円、資本剰余金が53,293千円、利益剰余金が39,646千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額
	飲料事業	珍味事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	173,552	145,627	319,179	10,213	329,393	-	329,393
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	173,552	145,627	319,179	10,213	329,393	-	329,393
セグメント利益	21,234	24,136	45,371	1,393	46,764	35,136	11,628

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、乾燥野菜事業、ナルト事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額35,136千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用35,136千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額
	飲料事業	珍味事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	216,778	181,835	398,613	4,650	403,264	-	403,264
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	216,778	181,835	398,613	4,650	403,264	-	403,264
セグメント利益	38,205	26,914	65,119	951	66,071	43,323	22,748

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、乾燥野菜事業、ナルト事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額43,323千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用43,323千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	2円98銭	5円23銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	10,090	17,751
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	10,090	17,751
普通株式の期中平均株式数(株)	3,388,221	3,388,221

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年11月7日

石垣食品株式会社  
取締役会 御中

東陽監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 村本 泰雄 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 森口 博敏 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている石垣食品株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、石垣食品株式会社及び連結子会社の平成24年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれておりません。